

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西棟 )

事業所番号	0691900039		
法人名	社会医療法人公徳会		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	山形県南陽市柵塚929		
自己評価作成日	令和4年 9月 13日	開設年月日	平成 19年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和4年 10月 6日	評価結果決定日	令和4年 10月 27日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を常に意識するように事務室に掲示している。共通理解を持ち日々のケアに活かせるよう今後理念についての学習会を予定している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時の地域のボランティアサークルの方と交流があったが、コロナ禍で出来ていない。法人内の職員に踊りなど披露してもらい交流をしている。新型コロナウイルス感染予防の為カフェは中止している。地区の春祭りも中止で子供神輿も中止となり交流出来なかった。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	めくもりカフェにデイルームを開放し利用してもらい、グループホームについて理解してもらっていたが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため中止している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実情や利用者の状況やサービスの内容、評価への取組み状況について報告し話し合いを行い、そこでの意見を可能なものについてはケアに取り入れ双方向な会議にしていたが、新型コロナウイルス感染予防のため現在は紙面での会議としている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課の担当者に運営推進会議に出席してもらい、事業所の実情を伝えている。芋煮会に担当職員を招待し、利用者と交流する機会を設けていたが、新型コロナウイルス感染予防のため出来ていない。制度等で分からない事があれば積極的に聞いている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての学習会をして禁止の対象となる具体的な行為を理解し日々のケアを振り返り、そのような行為をしない事を確認し合っている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、身体拘束をしないよう話し合い、会議結果について全職員が目を通すようにし、共通理解をはかっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止法について学習し虐待についての具体的な行為を理解し、日々のケアを振り返りそのような行為をしない事を確認しあつた。利用者の身体にあざや傷等変化がみられた時は、職員間で何によるものか明らかにして虐待でない事を確認し合っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学習会をして日々のケアで具体的にこの様にするか理解し、確認し合つた。成年後見制度を利用する為申請している方がおり、今後補佐人と相談しながら本人に必要な支援を行っていく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改訂の際は利用者の家族に丁寧に説明し、疑問がないか尋ね、理解納得してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意向・要望等を注意深く受け止め可能な限り応えるようにしている。家族の来所時に直接意見や要望を聞くようにし、年に1度利用者・家族にアンケートを行い、それらの要望に応えるよう努めている。新型コロナウイルス感染予防のため面会禁止の時は電話やオンライン面会時に要望を聞いている。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議やフロア会議で職員の意見や提案を聞き運営に活かし、必要があれば上部の会議に提案し可能な限り運営に反映させている。設備や備品で運営に必要な事があれば検討して設置している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期に分けて事業計画に沿って各自目標を設定し仕事に取り組んでいる。半期ごとに実績や頑張りを評価し各自が向上心を持って働けるように努めている。家庭環境や事情を考慮し勤務調整、休み等の相談に応じ、安心して働けるようにしている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はそれぞれのレベルに合った法人内外の研修に参加出来るようにしている。施設内では学習会係を中心に認知症ケアに関する学習会・その他の伝達研修をして全員がレベルアップできるようにしている。新型コロナウイルス感染予防のため外部の研修参加を控え、オンライン研修に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍となりオンライン研修が中心で交流会は出来ていない。質問等あれば他の施設に訪問又は電話で情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスを行い生活歴や心身の状態を把握したうえで本人と話す時間を多く持つ様にしている。不安や要望などを聞きケアに取り入れ安心して生活を送ってもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を取り巻く家庭環境を把握し不安や要望に耳を傾け、より強い信頼関係が築けるように努めている。また、その内容をケアプランに活かし提示している。入所後は家族に利用者様の様子を伝え安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の相談内容を十分に見極め状況や意向に沿ったケアを行えるように努めている。必要があれば他のサービス、制度などを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶会などの生活の中で職員と利用者が過ごす機会や会話を持つ時間を意識して多く設けている。洗濯物たたみや食器拭き、掃除などを一緒に行い、お互いに支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年一回は家族にカンファレンスに参加してもらいホームでの生活の様子を伝え家族の意見を聴きお互いの思いや意見を共有していたが、現在は新型コロナウイルス感染予防の為にやっていない。現在は電話やオンライン面会の際に情報交換を行っている。毎月の家族への手紙の中で本人の変化、生活の様子や出来事などを写真を添えて詳しく伝えている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などの来訪時は本人の部屋でお茶を飲みながらゆっくりと過ごせるように配慮し外出などでも今までの関係性が継続出来るよう支援していたが現在は新型コロナウイルス感染予防の為にやらず窓越しでの面会や電話で対応している。			
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂内の座席や生活する上で利用者同士の関係を把握しトラブル防止に努めている。対人関係が上手くできずにいる時は利用者の気持ちを十分配慮し職員が個別に対応している。快適に過ごせる様食堂の座席や配置を検討中。			
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの出来事や思い出の写真をアルバムにして渡し、終了してからも思い出してもらえるようにしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から本人の希望や困っている事など意向を把握するように努めている。希望に対しては柔軟に対応している。			
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴や暮らし方を聞き把握している。職員間で情報を共有しホームでも得意な事は力を発揮できるように援助している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを観察し性格や考え方を把握すると共に出来る事、出来ない事を理解した上で自分で出来る事は行ってもらうよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で本人や家族の要望を聞きアセスメントをもとに定期的にかンファレンスを行い情報交換や現状を把握しプランを作成している。リハビリ担当者に評価してもらいプランに沿って機能訓練を行っている。また、モニタリング表を活用しケアプランに沿ったケアが出来たか毎月確認している。カンファレンスには家族やデイケア職員も参加していたが現在家族の参加は出来ないためオンライン面会時や電話で意向を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを実施しての反応や職員のきずきや工夫を具体的に書くように努めている。申し送りシートを活用し情報を共有している。職員間の意識の共有を図りながら介護計画にも活かしている。現在電子カルテに移行中である。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止の為、地域の催し物への参加ボランティアの受け入れ、外出なども自粛している。6月には地域の食堂より出前を取り、レクリエーションとして取り入れた。コロナ感染症の制限が解ければ積極的に地域と関わる機会を設けていく。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院の受診は職員が通院介助を行っている。受診時にはホームでの様子を伝え、結果は記録して職員間で共有している。他科受診に関しては家族に依頼し情報提供し、必要時は職員が付き添い医師に状況を伝えている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師にバイタルチェックや心身状態の観察をしてもらい、身体面で心配な事を相談し、助言を得ながら日々のケアに活かし、健康管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療連携室や病院関係者との情報交換を密にしている。コロナ禍のため、こまめに電話にて情報収集を行い、退院の時期や今後の方向性などの相談を行っている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期の在り方について、入所時やカンファレンス時に家族の意向を聴き、方向性を話合っている。主治医と家族との面談を行い、状態の説明や今後についての相談を行っている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変、事故発生時のフローチャートの見直しを行い、スタッフの動きや連絡形態を確認している。</p>		
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人全体の避難訓練とホーム独自の避難訓練を行っている。水害時の訓練は、コロナ禍の為一時避難場所の玄関までの訓練、防水シャッターの設置訓練とした。火災時の訓練は、今年も地区消防団等外部からの参加は見送り、施設単独で行う予定である。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>丁寧な言葉遣いで利用者の意見を尊重する対応を心がけている。利用者のケアを見直し、プライバシーの侵害にならないよう対応している。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>決定事項は利用者を確認し決めてもらっている。行きたい所などの希望を聞き、行事や個別ケアに取り入れている。4.5月はコロナ感染予防のため、外出は中止していたが、6月より個別の買い物などは混雑しない時間帯に出かけるなどの対策をして、出来る限り行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大事にして食事・入浴時間・就寝時間などを臨機応変に対応し、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室がある方はいつでも利用できるように支援していたが、現在はコロナ感染症予防の為、訪問の床屋を利用して個人の好みに応じたカットや顔そりを行っている。また、衣類の選択ができる方は、自分で選び着替えてもらっている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や、食器拭きなど出来る範囲で参加してもらい、ホームの畑から季節の野菜を利用者と一緒に収穫し食材として取り入れている。例年は外出レクや花火大会などで特別な食事を楽しんでいるが、今年はコロナ感染症予防の為、出前レクやホーム内で外食気分を取り入れ楽しんだ。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フローシートや水分チェック表を活用し、摂取状況を把握し、栄養や水分が確保できるよう努めている。一人ひとりの好みに合わせ、水分摂取してもらっている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシングが出来る方は声かけをして自分で行ってもらう。介助が必要な方には、一部介助や義歯の洗浄を定期的に行っている。口腔内の状態によっては個別のケアで義歯の適合の確認、歯牙の欠損状況を定期的に把握し、変化がある場合は速やかに治療を勧めている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンや言動から声かけやトイレ誘導を行い、失禁の軽減やトイレでの排泄を促している。尿量に適した排泄ケア用品を選び交換回数も個別に対応し自立支援と清潔保持に努めている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄の確認を行い一人ひとりの排泄サイクルや水分摂取量を把握し、排便時は医師の指示を受けながら下剤を使用してコントロールしている。毎日乳酸飲料の摂取と水分を多く摂るよう努めている。また、軽体操や寒天を使った間食を定期的に提供して便秘予防に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回以上で曜日は決めているが希望や体調により変更も可能で希望に沿った入浴が出来るように努めている。また、ゆったり快適に入浴出来るよう、入浴時間や湯温の設定等を個々の希望に合わせて対応している。柚子湯など季節のお風呂や入浴剤を使って楽しんでもらっている。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望に合わせて休息出来るよう支援している。不眠の方は医師と相談して薬の処方や服薬時間などを細かく調整している。また、日中の運動量を増やす支援によって安眠に努めている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別にファイルし内容をすぐに確認できるようにしている。処方内容の変更は診察ノートと申し送り職員全員が把握し状態観察を行い変化があれば医師に報告している。薬は施錠管理し服薬に関するマニュアル、薬チェック表を活用しダブルチェックを行っている。点眼薬も同様に行っている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	後片付けや季節の行事食作り、野菜の収穫、掃除など本人の出来る役割を見つけ行ってもらっている。得意な手仕事や創作活動などは個別に支援している。また、気分転換を含め季節行事、誕生会、散歩など行っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出の自粛はあるが、個別の散歩や外出などの支援を行い気分転換に繋がるように努めている。他科受診は家族に付き添ってもらい、家族との交流、外出支援の協力をしてもらっている。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により小遣いを持っている方もいるが、買い物希望があれば代行している。他には個別の援助として買い物のための外出も行い、立替分の明細は毎月送付している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙も自由にやり取り出来るように支援している。また、家族からの電話は本人に繋ぎ直接話をしてもらっている。現在使用している方はいないが携帯電話の所持も可能。年賀状は季節の行事として毎年家族へ出しているが、書く事が出来ない方は代筆している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が個人、共同で作成した作品や利用者の写真を掲示したり、季節の飾りつけで明るく季節を感じる環境づくりに努めている。また、ダイルールのテレビはどこの席からでも見られるように複数台設置している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やソファコーナーの共有スペースで思い思いに過ごしてもらっている。ダイルールの食席についても、大小のテーブルがあり、個々に合わせゆっくり落ち着いて過ごせる空間づくりをしている。居室も一人一部屋を使用し、自室にてゆっくり出来るように配慮している。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に写真や使い慣れた時計、テレビなど利用者の好みや馴染みの物を持ち込んだり、生花を自室に飾るなど、居心地良く安心して過ごせるように配慮している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は全てバリアフリーになっており、廊下には手すりがあり、利用者の安全と自立を意識した造りになっている。安全の確保と自立への配慮に努めている。		